代表者
林田

行政視察報告書

令和6年10月15日

会派代表者　殿

呉市議会議員　林田浩秋
梶山政孝
渡辺一恵
田中みわ子
河原初海
佐伯航一郎
片岡慶行

次のとおり行政視察したので報告します。

1．視察期日

令和6年10月8日（火），9日（水），10日（木）

2．調査項目

栃木県　宇都宮市・スーパースマートシティうつのみやについて

岩手県　盛岡市・第19回全国市議会議長会研究フォーラムin盛岡

青森県　八戸市・八戸ポータルミュージアムはっちについて
・八戸市美術館について

3．参加議員
林田　浩秋，梶山　政孝，渡辺　一照，田中　みわ子，河原　初海，
佐伯　航一郎，片岡　慶行

4．随行者
なし

栃木県宇都宮市
■調査項目
スーパースマートシティうつのみやについて

・調査対応者
宇都宮市議会　副議長　今井　政範
宇都宮市都市ブランド戦略課　課長　青柳　裕
宇都宮市総合政策部デジタル政策課　係長　今崎　泰浩
宇都宮市子ども政策課　係長　片庭　哲也
宇都宮市子ども政策課　係長　髙久　佐知子

・調査期日
令和6年10月8日（火）15時30分～17時00分

・宇都宮市の概要（令和6年4月1日現在）
人口　：511,519人
世帯数：237,764世帯

・調査目的
「スーパースマートシティ」の実現に向けた原動力「人」づくりと「デジタル」を活用し、地域社会全体のデジタル化を推進していくため、理念や方向性を共有する「宇都宮市デジタル共創未来都市ビジョン」を調査するため。

・調査内容
【宇都宮市からの説明】
デジタル活用の推進に向けて、市民・地域活動団体・事業者・行政など、多様なステークホルダー同士がシビックテックなどを通じた連携を深め、それぞれが保有する知見やデータ等を活用し、取組を推進する。市民はそれぞれのライフスタイルやニーズにあったデジタルサービス等を効果的に活用し、便利で豊かな生活を送られるようにする。地域活動団体は地域におけるつながりの創出や活動の維持・活性化などに向け、多様な主体と協力・連携をしながらデジタル活用へ踏み出す。事業者は事業活動等の最大化に向け、デジタルを効果的に活用し、地域活動の解決に向け、各主体と連携し、プロジェクト等をけん引

していくアーキテクトの役割を担う。行政は地域課題の解決や先進技術等の活用に向け、各主体と連携しながら、デジタル化やＤＸに取組んでいけるよう、環境づくりや様々な支援等を行い、地域社会における一つの主体として、行政自らＤＸを強力に推進し、「スーパースマートシティ」の実現をリードしていくことを説明された。

【質疑応答】

Ｑ　「スーパースマートシティ」の実現に向け、その原動力となる「デジタル」の活用の外部デジタル人材の任用やデジタルスクエア、デジタル共創未来都市ビジョンについて質問する。

Ａ　「デジタル」は、市民生活の質の向上や多様化・複雑化する地域課題等の解決に資する手段である。デジタル社会形成の基本法の制定から自治体ＤＸ推進計画を踏まえて、とちぎデジタル戦略を策定し方向性を明記する。市民のデジタル化の現状は、スマートフォンの保有割合は全体で 9 割を超えているが、高齢者は、デジタル機器等を活用できない状況があり、デジタルの恩恵を受けられるように取組んでいく必要がある。また、セキュリティ対策にも配慮しつつ、アジャイル（迅速・柔軟）手法を用いながら、より良いサービス提供に向け、データ等を効果的に活用していく必要がある。デジタル活用の方向性としては、1「地域共生社会」に貢献するデジタル、2「地域経済循環社会」に貢献するデジタル、3「脱炭素社会」に貢献するデジタル、4「まちの基盤ＮＣＣ」に貢献するデジタル、その他にも「デジタル人材」を地域で育成するために、デジタルスキルを習得できる環境づくりや、高度デジタル人材のシェアリング等の効果的な活用に向けた仕組みづくりなど、市・事業者・大学等が連携・協力しながら、地域社会で活躍できるデジタル人材の育成・確保に取組んでいる。デジタル活用の推進に向けて、「行政（市役所）」は、ビジョンに基づき取組むデジタル施策・事業について、「宇都宮市ＤＸ実現タスク」としてとりまとめ、各種取組を柔軟かつスピーディーに進め、「行政（市役所）」のＤＸの実現を図っています。

Ｑ　大学等の受験料や模擬試験受験料の支援を行なわれている背景とその評価について質問する。

Ａ　目的として、進学段階での貧困の連鎖を断ち切るため、経済的課題を抱える貧困世帯の子どもに対して、受験料等の支援を行なうことで、貧困世帯の子どもの進学に向けたチャレンジを後押しするものである。補助要件としては、（1）申請日時点で、児童扶養手当を受給する世帯または市民税非課税世帯（2）申請日時点で、申請者（原則保護者）の住民登録が宇都宮市にある（3）当年度中に子どもの大学等の受験料や模擬試験受験料を支払った世帯。大学等受験料は 1 人あたり上限 53,000 円。模擬試験受験料（高 3 等）は 1 人あたり上限 8,000 円、模擬試験受験料（中 3）上限 6,000 円であ

る。令和６年４月より周知開始（広報紙・市ホームページ掲載・チラシ配布）５月制度構築のための先進市視察し、申請受付開始から補助金交付となる。

Ｑ　宇都宮市ゆうあいひろばについて、運営者、うつのみや表参道スクエアとの運営関係、設計コンセプト、課題と今後の展望について質問する。

Ａ　「ゆうあいひろば」の概要説明は、①子どもたちのあそび広場であり、主に乳幼児から小学生までを対象に、児童の健康増進や創造性を育成するため、大型遊具や読書、読み聞かせ、工作の遊びを提供する。②青少年エリアとして中高生を対象に自主的な活動や交流の促進を図るため、気軽に利用できる居場所を提供し、その活動を支援する。③ファミリーサポートセンターは、子育て家族における仕事と育児の両立や子育ての負担軽減を目的とし、地域の「育児の援助を行ないたい人」と「育児の援助を受ける人」を組織化し、相互援助活動を支援する事業である。④一時預かり保育は、保護者の育児に対する心理的及び精神的負担を軽減するため、一時的に児童を預かり、保育するものである。課題としては、利用者数が、リニューアルに伴い増加したが、Ｒ５年は減少した。利用時間の拡充や利用促進に向けた周知を強化する。

【呉市での展開の可能性】
呉市は、年齢制限のある「くれくれば」「ひろひろば」の活用を考える必要がある。また、若者が集う場所や居場所がない状況である。若者を市内に取り込む取組を呉市が一体となって考える必要がある。市内の廃校となっている小学校・中学校の施設の再利用を考える必要があるのではないか。

岩手県盛岡市
■調査項目
第19回全国市議会議長会研究フォーラムについて

令和６年10月９日（水）　13時00分～17時00分
令和６年10月10日（木）　９時00分～11時00分
・岩手県盛岡市の概要（令和６年10月１日現在）
人口　：280,406人
世帯数：132,869世帯

【１日目】
・パネルディスカッション「地方議会の課題と主権者教育」
コーディネーター　井柳　美紀　様　「静岡大学人文社会科学部法学科教授」

パネリスト　　土山　希美枝様　「法政大学法学部教授」
　　越智　大貴　様　「一般社団法人WONDER　EDUCATION代表理事」
　　渡辺　嘉久　様　「読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局」
　　遠藤　政幸　様　「盛岡市議会議長」

（井柳）
・議長会による主権者教育の推進
・統一地方選挙の投票率推移,統一地方選における選挙競争率
・教育基本法第8条と文科省通知「高等学校における政治的教養と政治的活動」
・「高等学校等における政治的教養の教育と高等学校の生徒による政治活動」
・高校生向け主権者教育副読本『私たちが拓く日本の未来』

（土山）
・「誰がための主権者教育」か。
・市民と議会の間にあるもの、若者と社会の間にあるもの
・議会は主権者教育の「主体」か。
・議会と子ども、若者たち、教育機関との関係のなかでの「主権者教育という機能」
・議会は何をなすべきか。「誰がための高校生議会か。」

（越智）
・「若者の政治・社会への意識から考える主権者教育の必要性」
　13年間の主権者教育の取組を通して
・若者は、政治や社会をどう捉えているのか。
・学校現場における主権者教育の現状
・13年間の主権者教育の取組について

（まとめ）
若者は、関心がないわけではなく、参加しても意味がないと思っている。議会の役割として交流の機会を増やし、「自分の意見が聞いてもらえる」「自分のアイデアが反映されるかも」と感じられる機会を増やす。学校現場における主権者教育の現状は、政治的中立への過度な配慮があるが、学校が悪いわけではない。議会としては、学校でもリアルな政治が扱いやすいような環境をつくる。政治家との交流は、子ども達の政治意識の醸成に大きく影響する。

（渡辺）
・学校の未来を考える。50年後の学校、人口減少、生徒数減少、授業料収入減少
・人口減少の未来はどうなるか。社会保障費増大し現役世代の負担増、積極財政のつけ、借金依存の財政、かさむインフラ維持・管理費。
・高校生の政治意識を大阪教育大学付属高校池田、青山学院横浜英和中学高等学校、静岡県立袋井商業高校、静岡県立袋井高校、済美平成中等教育学校786名よりアンケート実施。何が投票を促すか、政治とつながるとは、自分の未来を創造する。

・どういう未来を生きたいか、理想の未来は、「こうありたい未来は」「こうありたい」という未来のための何が必要か。

（遠藤）
・盛岡市議会の取組として、高校生議会開催の検討（議会運営委員会）
・第１回盛岡市議会高校生議会開催から第４回まで議会を開催する。目的は次代を担う高校生が選挙及び政治並びに身近な地方行政への関心を高める。
(1) 盛岡市議会としての主権者教育に取組む。
(2) 議会の役割を理解し、市の施策を身近に感じる機会であること。
(3) 議員が高校生と直接交流する場であること。

【2日目】
課題討議者　「主権者教育の取組報告」
・コーディネーター　河村　和徳　様　「東北大学大学院情報科学研究科准教授」
事例報告者　白鳥　敏明　様　「伊那市議会前議長」
諸岡　覚　様　「四日市市議会議員（第83代議長）」
服部　香代　様　「山鹿市議会議長」

（河村）
地方議会と主権者教育
・理想として主権者教育は、基本的にシチズンショップ教育であり、地域社会の課題を自ら認識し、経験を含めた形で社会を改善していく力を養う。また、社会には多様な意見があることを理解させる。現実は、知識の享受が中心で投票者重視の教育であり、実施の主体との連携不足。
・選挙権年齢の 18 歳引き下げの論点。選挙と選挙後の連続性を理解させる必要性。現在の主権者教育で感じる限界。政治に参加する方法。

（白鳥）
・「高校生の議会傍聴と意見交換会の取組」
・長野県伊那市の概要、平成 30 年の市議会議員選挙が無投票になり、議員のなり手不足に危機感を抱く。開かれた議会を目指し、議会改革の一環として高校生に議会への関心を持ってもらうために、高校生の議会傍聴、高校生との意見交換会を企画する。令和元年より伊那西高校生徒の議会傍聴と意見交換会実施。令和 4 年度からは、市内の全高校を訪問し、議会傍聴、意見交換会の実施を依頼する。令和５年３月、伊那弥生ヶ丘高校生徒による探究学習発表、懇談会実施。令和５年６月高遠高校生徒の議会傍聴と取組発表、意見交換会実施。伊那西高校生徒の議会傍聴。令和５年７月伊那西高校生徒との意見交換会（グループ懇談会）、令和５年８月伊那北高校生徒による探究学習発表と意見交換会実施。
・①成果として、議員と高校生徒と意見交換することの大切さを感じた。学校に市への意見箱の設置ができれば政治の興味が持てるのではないか。災害時に校舎を

避難所として利用することや運営スタッフとして高校生が参画することはできないか。
・②成果として、意見交換に参加した高校生による請願の提出から全会一致で子育て環境改善が採択された。
・③成果として、高校生からの要望を執行部へ投げかけ、通学路の街灯増設要望が担当常任員会へと進み現地調査から改善要望提出となった。
・課題として、高校生から議会はＳＮＳをもっと活用すべきである。議事録は活字が多く、読みやすいようにすることが必要である。意見交換会を定期的に行なって多くの意見を汲み取ってほしい。居場所を駅周辺に造ってほしい。

（諸岡）
・「四日市市議会の主権者教育の取組について」
・四日市市の概要、四日市市議会の概要、四日市市議会基本条例、議会改革度調査総合ランキングと市議会議員選挙投票率、正副議長立候補者による所信表明と「ワイ！ワイ！ＧＩＫＡＩ」を公約で決定。出前型意見交換会「ワイ！ワイ！ＧＩＫＡＩ」各常任委員会が、地域の高校・大学に出向いてテーマをもとに意見交換会を開催する。「ワイ！ワイ！ＧＩＫＡＩ」で開催校の生徒が授業の一環で市議会を訪問し、本会議一般質問を傍聴する。生徒に興味関心を持ってもらうために生徒と議員で選挙ポスターを作成した。今後の展望として、将来的には、各種業界団体や各種労働組合など、制限を設けず、幅広い対象との意見交換を目指す。
・高校生議会は、高校生議会概要として県北部の公立高校・特別支援学校高等部の生徒、市内の私立の高校および特別支援学校高等部の生徒とテーマごとに委員会に分かれて意見交換を行ない、本会議場で意見書の採択を行なう。よっかいち市議会だよりこども号の発行も行なっている。

（服部）
・「山鹿市議会が取組んだシチズンシップ教室」
・山鹿市議会の課題として、開かれた議会になっていない。住民の理解と関心が得られない。議員のなり手不足である。議員のスキルアップが必要である。
・なぜ、小学校でシチズンシップ教室を行ない、伝えるのか。市議会について知る。議員の仕事を理解する。選挙の意義や投票の大切さを伝える。企画から実施までの流れは、教育長から全議員へ提案、校長会に協力依頼、選抜議員と資料検討作成、議長による議員への模擬授業し、各担当学校を決定。議会を知ろう。議会と児童会、議員の仕事、山鹿市議会について、自分たちのまちの決まりは自分たちで決めよう。議員になったワケ。子ども達の感想として、投票には興味がなかったが、実際に投票してみれば一票がどれだけ大事で、選んだ人によってどんな未来になるのかが変わることを知り、投票の大切さが理解できた。選挙は簡単だと思ったが、選挙をしてみるとどちらにしようか迷った。真剣に考えて選挙に行こうと思った。子育てしやすい町、防災に強い町にする山鹿市を作っていくことが大切であることがわかった。

【呉市での展開の可能性】

呉市においては、主権者教育の一環として、各委員会が市内の高等学校に出向き出前型の議会報告会や二元代表制についての説明を行なっている。ただ、課題も多くあり、一方的に議会側が説明で終わっている。生徒達が主体的に興味関心を持てる内容や取組を、今後考えていく必要がある。

青森県八戸市

■調査項目

・八戸ポータルミュージアムはっちについて

・八戸市美術館について

・調査対応者

八戸ポータルミュージアム　館長　佐々木　淳一

八戸市美術館　副館長　宗石　美佐

・調査期日

令和6年10月10日（木）13時30分～15時30分

・八戸市の概要（令和6年9月30日現在）

人口　：213,977人

世帯数：108,563世帯

・調査目的

新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図ることで、中心市街地と八戸市全体の活性化を目指す取組の調査と八戸市の活発に展開される市民の皆様に文化芸術活動の拠点と、「アートのまちづくり」の中核施設としての新美術館を視察することを目的とする。

【八戸市からの説明】

青森県八戸市の中心街にある「八戸ポータルミュージアムはっち」は、八戸の地域資源をベースに、八戸市民の様々な活動をサポートする拠点施設である。観光や市民活動のどちらにも大活躍している八戸の顔ともいえる施設である。本八戸駅から徒歩 10 分、街の中心地である三日町の大通りに「八戸ポータルミュージアムはっち」がある。2011 年 2 月にオープンし、観光とまちづくりのための拠点施設となる。年間約 90 万人が訪れ、正面入り口から建物に入ると青森県南部地方の郷土玩具「八幡馬」。2 階には、「八戸三社大祭」や「八戸えんぶり」、漁業、朝市、工芸品など、8 つのテーマに分かれて八戸市観光資源がミニチュア模型で紹介している。4 階は「こどもはっち」として、青森県産材でできたおも

ちゃを使って自由に遊べる子育て集い広場となっている。公民館としての機能も兼ね備え、多様なニーズに応えている。1階から5階までの建物内にある施設は有料で貸しをする。館内には八戸の海鮮が食べられるカフェ、八幡馬や伝統のガラス細工など、郷土玩具を中心にセレクトされお土産も購入できる。また、別館である八戸まちなか広場「マチニワ」は、街なかの「庭」のような役割を担う「マチニワ」を基本コンセプトとし、「緑・水・光・風」の中心市街地に不足している自然要素を取り入れ、地区全体の魅力向上、にぎわいの創出、回遊性の向上、周囲への効果の波及等を促す新たな拠点を目指している。

八戸市美術館は2021年11月3日に再開館した。「アートのまちづくり」の中核施設として整備された。設計者選定プロポーザルで提案された「学びの拠点（ラーニングセンター）」という概念を活かし、「ジャイアントルーム」のエントランスとしての役割のみならず、人々が自由に集い、学び、活動する場としての役割も担う巨大な空間を演出する。また、専門性の高い個室群を作りより深く学び、それぞれに個性がある個室群を「ジャイアントルーム」の周囲に配置した美術館とした。

【質疑応答】

・八戸ポータルミュージアムはっちについて

Q　施設の概要や運営方針と「マチニワ」の利用状況について質問する。

A　中心市街地活性化という地域課題を解決するために建設され、2011年2月11日に「八戸ポータルミュージアムはっち」としてオープンした。施設概要説明をし、コンセプトとして何度も訪れたくなる複合施設にする。会所場づくりカフェ・ショップ 1F・ものづくりスタジオ 2F～4F・こどもはっち4F・館内展示1～3F・貸館事業として、はっちひろば・シアター・ギャラリー・和のスタジオ、食のスタジオ、自主事業として建物内に有するレジデンス機能を活用し、公募したアーティストが地域資源を新たな視点で捉えなおし、文化芸術の力により新たな価値を加え、地域の人々がその魅力を再認識する機会とすることを目的に事業を展開することを説明した。

・八戸市美術館について

Q　八戸市美術館の概要コンセプトと八戸市と周辺地域における役割と若年層や学校連携について質問する。

A　八戸市美術館は2021年11月3日に再開館した。総工費約32億円で、鉄骨3階、延べ床面積約4,590平方メートル、多様なレイアウトが可能な約835平方メートルの「ジャイアントルーム」が設置された。これまでの事業活動として藤井フミヤ展・ジャイアント食堂・きむらとしろうじんじん野点プロジェクトを行なう。学校教育との連携として、小中高の教育機関と連携したプロジェクトや教員と学芸員、専門家で構成されたプロジェクトチームで、児童生徒の個々の価値観や美意識を醸成し、1人1人がアートを通して自立する機会をつくるために、互いにアイデアを出しながら協力し活動している。

「学校連携」として、子どもたちの力を伸ばして新しい価値をつくり出せる人を育むために、教育委員会や小中高校との連携を図り、美術館から学校へと広がっていくプログラムを行なうとともに、市内の大学・高専が有する専門性と連携して、経済や福祉、まちづくりなど、アートの力を他業種や他分野と融合させるプログラムを行なっている。

【呉市での展開の可能性】

呉市においても、新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図ることで、中心市街地と呉市全体の活性化を目指す、「八戸ポータルミュージアムはっち」のような施設を企画ができればと考える。

また、呉市立美術館がある呉市の幸町地区（青山クラブ・桜松館・入船山記念館・美術館）は、市民や観光客が歴史・文化・芸術に親しむことができる地区となっており、幸町地区の総合整備について一体的に検討を進めているところである。

しかし、青山クラブや桜松館については、建物が耐震基準を満たしていないため、耐震診断やニーズ調査等を行いながら、これまで活用方法についての検討を進めてきたところであり、呉の歴史・文化・芸術を学び、感じることのできる場としての機能の検討が行われている。